

近隣の各科専門医と連携し 高品質の小児歯科医療を提供

堀川 早苗 院長

おだか小児歯科 千葉県千葉市美浜区幕張西 2-7-16-1F



「地域で開業している専門医との連携をもっと深めて、患者さん一人ひとりに最良の治療を提供していきたい」と話す院長の堀川早苗先生

大学院在学中に結婚
子育てが一段落したのを機に開業

おだか小児歯科は2013年3月、千葉市美浜区の住宅街の一角、地域の子供たちが通う小学校の向かいにオープンした。院長の堀川早苗先生は、千葉県内に60名余りしかいない小児歯科専門医の一人だ。この専門性を地域の人々にわかりやすく伝えるために、医院名に「小児歯科」と入れた。

「おだか」というのは、院長のお母様が千葉市内の自宅に併設して営んでいた

小高歯科医院の名前を引き継いだもの。「医院そのものは継がなかったのですが、せめて名前だけでもと思って、ウサギと歯ブラシをデザインしたロゴマークともども私が引き継いで使っています」と笑顔で話す。

堀川先生が開業した直接のきっかけは、子育てが一段落したことだ。1987年に東京歯科大学を卒業し大学院に進学。93年に修了すると同時に小児歯科専門医を取得した。そしてもう一つ、同じ93年に迎えたのが初めての出産だ。学生結婚し、その後、都内で開業した



小学校の向かいに建つ3階建てビルの1階にあるおだか小児歯科



上)「ハミガキしようよ」と子どもたちに呼びかけるウサギのマスコットがかわいらしい
左) ビビットなグリーンとマスコットのウサギが目を引く看板

歯科医師のご主人との間にできた待望のご長男である。

「もともとは私も開業希望だったのですが、子育てをきちんとやりたかったんです。ですから、しばらくは主婦をしながら母や夫の医院を手伝う道を選びました。97年には次男も生まれたので、どちらかというと、仕事より子育てに力を入れた時期が長かったですね」と堀川先生。

「長男が通っていた学校のPTAの役員をしてたくさんの仲間ができた、子役として舞台に出ていた次男の縁で、約

10年間にわたりステージママのような生活をしたり、貴重な経験ができましたし、すごく楽しめました」と、みずみずしい思い出とともに当時を振り返る。

このころに出会ったたくさんの子供たちや親御さんたちとの交流を通して、子ども時代の日々の生活や習慣が、その後の口腔の状態や心身の健康に密接に関わっていることを実感したという堀川先生は、治療だけでなく教育や情報提供にも力を入れ、食事や睡眠、運動や姿勢など、あらゆる面から専門医としてのアドバイスをを行う歯科医院を開くこ

とを決意した。

安全・安心をベースとした
明るく楽しい診療室

お母様の歯科医院は継がなかったと書いたが、その理由は主に、それぞれが取り組む分野の違いにある。お母様は補綴が得意で、長年、高齢者を中心に診療してきた。一方、堀川先生は先に触れたとおり小児歯科専門医である。

「母の医院には小児の患者さんがほとんどおらず、設備も老朽化していました



堀川先生の診療は、歯科衛生士、歯科助手1〜2名とともに進行



小児用の歯ブラシやデンタルペーストの見本が並ぶ受付



待合室に置かれたソファはカラフルでフカフカ



月に1度の全体ミーティング。院長からの指示・連絡、スタッフとの意見交換などを行う

から、私が継ぐとしたら全面的に改装し、必要な機器を揃えうえて、新たに小児の患者さんを集めなければならない状況でした。だったらその費用や労力を新規開業のために使ったほうが、自分の力を生かせると思ったのです」

こんな思いから物件探しを始めたのが2012年9月。タイミングよく今の場所が見つかり、すぐに契約した。住宅街で小学校の向かいということに加え、自宅から徒歩で通える位置にあったことも、ここが気に入った大きな要因だ。「子どもが手を離れたとはいえ、主婦としての役割もありますし、何より全力で診療するためには通勤が楽なのが一番です。これから独立を考えている女性歯科医師の皆さんには、自宅近くでの開業をぜひおすすめしたいと思います」と実感をこめて語る。

さて、堀川先生が子どものための歯科医院としてつくったおだか小児歯科は、レントゲン室やトイレの壁一面にディ

ズニーキャラクターの壁紙を貼ったり、オムツ替えシートやチャイルドシートをトイレに完備したり、キッズスペースをスタッフが見守りやすい受付前に設けたりと、小児歯科としての配慮が行き届いている。また、広々としたパウダールームは、小さな子どもをもつお母さんたちに好評だ。

自然光がたっぷり降り注ぐ診療室には、ユニットが3台並ぶ。このうち窓寄りの2台はパーテーションで仕切られ、一番奥の1台は半個室だ。個室に閉じ込められたような感覚を怖がる子どもたちは開放的な空間の明るいカラーのユニットで、プライバシーを守りたい大人の治療は半個室で、というように使い分けている。

半個室に置かれたユニット、スマイリー GM-Sはお母様から譲り受けたもの。「かなり長く使っていますが、頑張ってくれています。最近購入したスマイリー GMP3-Sもそうですが、オサダのユニッ

トはなかなか故障しないので安心感があります」と話してくださいました。

小児の診療を行う中で、堀川先生が何より大事にしているのは安全の確保だ。医療安全管理対策に係る指針等の作成・研修、院内感染防止策など「歯科外来環境体制加算」の施設基準を満たしたうえで、診療中に動いてしまう子どもには歯科医師のほかにもスタッフが2名つくなど、設備面、運用面ともに安全を強く意識している。

難症例は早めに専門医に紹介 地域連携で最善の治療を提供

歯科医師としての自分自身の特徴として堀川先生は、専門性を重視する姿勢を挙げる。自分自身が小児歯科専門医として最大限の力を発揮するだけではない。小児歯科とは区別される分野、例えば矯正歯科については日本矯正歯科学会認定医の渡邊信子先生に、成人患

者の親知らずの抜歯や小児患者の小手術など口腔外科については、日本口腔外科学会専門医、国際口腔顎顔面外科専門医などの資格をもつ菅原圭亮先生に担当してもらっている。さらに、地域のほかの医院の専門医の協力も得ている点はきわめて特徴的だ。

「幸いこの近くでは、補綴の専門医も、口腔外科の専門医も、小児科の医師も開業しておられるのです。以前は大学病院に依頼していたCT撮影も、最近は歩いて3分のところにある歯内療法専門医が営む歯科医院にお願いしているので検査が迅速ですし、相談もできて心強いです」と堀川先生。

このように専門性を大事にするのは、これまで診た小児患者の中に、一般歯科で進行止めの処置だけを受けている間にう蝕を重症化させてしまった例が、稀とはいえ見られたからだという。

「こういう患者さんにお会いするたびに、もっと早く私のところに来てくれて

いれば……と思います。自分がそう感じるからこそ、難しい症例は早々に専門医に診ていただくことにしています。その後そのまま紹介先の医院に通われても構いません。結果的に患者さんのお口の健やかな成長が実現できれば、それが一番いいと心から思っています」と言う。

数々の役職を兼務 健康の秘訣はヨガとランニング

堀川先生は現在、千葉市歯科医師会理事(地域歯科保健担当)、千葉県歯科医師会地域保健委員、千葉県小児歯科医会副会長、東京歯科大学非常勤講師、全国小児歯科開業医会小児歯科医療将来検討委員・広報委員、介護保険認定審査委員など数々の役職を兼任している。これらの関係で、講演や原稿執筆の依頼に応えることもしばしばだ。また、睡眠歯科研究会など私的な研究

会にも複数参加している。

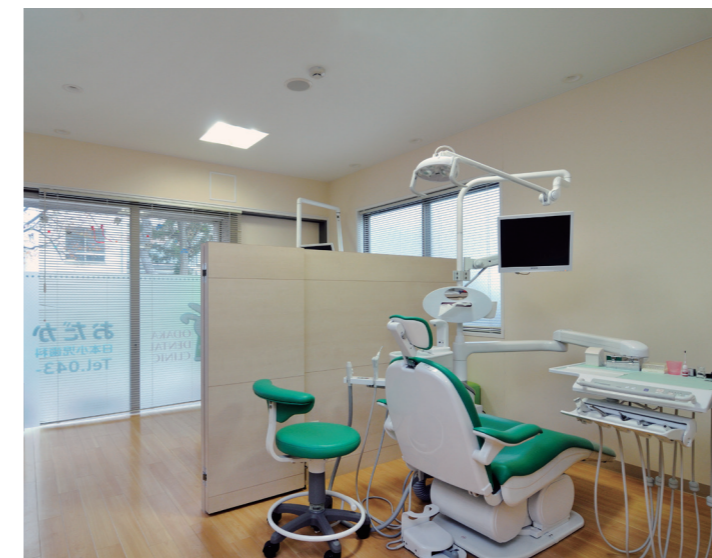
「実は、場を与えていただかないと引きこもってしまうくらい人見知りなんです」とご本人は笑うが、その多忙ぶりには想像に難くない。3つのクラブに所属し、大学祭の実行委員や学生会の副会長まで務めたという学生時代のパワーを、そのまま維持しているかのようである。

さらに、現在は成人対象に行っている歯科訪問診療を、今後は小児まで広げていきたいと考え、歯科医療を必要としている在宅小児患者を掘り起こすべく、医師や看護師、ケアマネジャーなどの情報交換も始めている。

めまぐるしい生活を支える健康づくりの秘訣は、時間を見つけては通っているジムでのヨガとランニング。「しばらくはこのまま走り続けたい。その後はまた改めて考えます」と語る堀川先生。スーパーウーマンともいべき活躍は、まだしばらく続きそうだ。



歯科訪問診療に出かける堀川先生と歯科衛生士。ポータブルユニット、デジター2をご愛用いただいている



[DATA]
 開業年月：2013年3月
 入居建物：ビル
 施設広さ：約93.16㎡(約28.4坪)
 導入方向：後方導入
 設備機器：スマイリー GMP3-S 1台、スマイリー GM-S 1台、デジター 2 1台
 診療仕切：パーテーション、半個室
 スタッフ：歯科医師3名(うち非常勤2名)、歯科衛生士3名、歯科助手2名

